

世界遺産登録 20 周年



令和6年 3月 8日 (金)	
県庁・西牟婁・東牟婁振興局 同時資料提供	
担当課 (室)	和歌山県世界遺産センター 南紀熊野ジオパークセンター
担当者	杉若 (世界遺産センター) 福村・後呂 (ジオパークセンター)
電話 (直通)	0735-42-1044 (世界遺産センター) 0735-67-7100 (ジオパークセンター)

和歌山県世界遺産センター・南紀熊野ジオパークセンター合同展示 ～地形地質から見た世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」～

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」は、和歌山、三重、奈良の三県にまたがる「紀伊山地の自然」がなければ成立しなかった「霊場」と「参詣道」及びそれらを取り巻く「文化的景観」が主役であり、世界でも類を見ない資産として価値が高いものです。今回の展示では、ジオパーク的な視点から見た世界遺産を切り口に「紀伊山地の霊場と参詣道」「南紀熊野ジオパーク」それぞれの魅力についてご紹介いたします。

◆期間・会場

1. 展示期間 令和6年3月19日 (火)～3月26日 (火)
2. 開館時間 9時～17時 (入館無料)
3. 会場 世界遺産熊野本宮館北棟 展示ロビー
(田辺市本宮町本宮 100 番地 1)
4. 主催 和歌山県世界遺産センター・南紀熊野ジオパークセンター

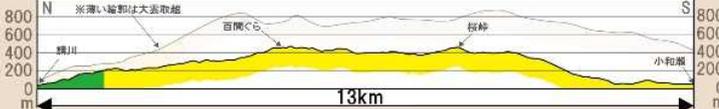
◆展示内容

- ・「紀伊山地の霊場と参詣道」の概要紹介パネルの展示
- ・「南紀熊野ジオパーク」の紹介パネルの展示
- ・地質地形の観点から見た「紀伊山地の霊場と参詣道」解説パネルの展示
- ・「紀伊山地の霊場と参詣道」資産の紹介パネルの展示

こぐもとりごえ
小雲取越 新宮市熊野川町・田辺市本宮町

熊野参詣道・中辺路の一部で、熊野那智大社と熊野本宮大社を結ぶ雲取越のうち、赤木川から熊野本宮大社に至るルートです。小雲取越は大雲取越に続く山越えであることから名付けられました。写真は百間ぐらで、「ぐら」とは「高い崖」の意味で、百間もあるような高い崖、断崖絶壁を意味します。ここからは、熊野三千六百峰と言われる重畳たる山並みが一望できます。

小雲取越と地形地質
小雲取越は堆積岩の山を越える峠です。この堆積岩は海底で砂や泥などが固まったもので、火成岩と比べると削られやすくなっています。そのため小雲取越は大雲取越と比べてなだらかな峠となっています。

熊野古道 小雲取越 (百間ぐら)

